

介護施設での排泄ケアについて

排泄は生きていく上で欠かすことができない生理現象です。施設ではそれぞれのご利用者の残存機能に応じた排泄スタイルを見つけ出し提供できるよう取り組んでいます。今回は排泄ケアのごく一部ですが紹介したいと思います。排泄は羞恥心を伴うとてもデリケートなものでもあります。プライバシーへの配慮やご利用者の気持ちに寄り添いながら排泄介助を行うようにしています。

「超音波測定器」

超音波で膀胱内の尿量を測定し数値で表示されます。排尿ごとに測定し、排尿時間、1回排尿量、尿失禁量、残尿量、などを記録していきます。これを3日間以上記録することで、その方の排尿パターンが把握でき、トイレの間隔やパット交換のタイミングやパットの種類等も検討していきます。

（使用方法）

- ①恥骨の位置を確認しプローブにジェルを塗る
- ②体の中心で恥骨の直上部にプローブを押し当てる
- ③残尿を測定する



パットの種類も多数あります！

尿の出方（少しずつ出たり一気に多量に出たり）や尿量は人それぞれ違います。ご利用者の排泄状態を把握し、その方に合ったパットを使用しています。また、パットは当て方によって漏れたりすることもあります。介助する職員はご利用者に快適に過ごして頂けるようパットの当て方を検討し、職員間で情報の共有を行っています。



ポータブルトイレ

高齢になるとトイレまでの移動も大変になる方もおられます。ベッドとトイレが離れて移動するのが大変な場合や、夜間にトイレに行くのが心配な方など、希望を確認しながらベッドサイドに持ち運びできるタイプの便器を設置しています。排泄後は都度内部のバケツをトイレに持って行き、中身を捨てて洗って使用しています。



排便ケア

下剤を飲むことでお腹が痛くなったり、飲み続けることで薬に耐性ができて効かなくなることもあります。薬を飲む前に・**食べ物から排便ケアを促しています**朝食にヨーグルトを提供したり食事の際、おかず1品に少量の**オリーブオイル**をかけて提供したりお茶に**食物繊維**の粉末を溶かして提供したりしています。出来るだけ下剤等に頼らずに排便を促せる取り組みも行っていきます。



【排泄ケアで大切にしたい事】

- ・自尊心を傷つけない
- ・プライバシーに配慮する（カーテンや扉を閉める）
- ・水分もしっかり摂取（脱水症状や便秘を予防する）
- ・できる部分はやって頂き、出来ない部分は介助する。
- ・定期的にトイレに案内する。
- ・排泄後の様子にも気を配る。

なんぶ幸朋苑 特養
つなぐ
笑顔ある未来



2023年

第4号

ボランティアさん募集！！

ボランティアさんを募集しています。特技、趣味を生かした活動、ちょっとしたお手伝い等、何でもかまいません。出来る事を、出来る時に！！少しから始めてみませんか？募集は随時行っているの、ご都合のつくときにご連絡ください。※内容や時間など応相談。※状況により、中止・延期をお願いする事があります。

<問い合わせ>
社会福祉法人こうほうえん
なんぶ幸朋苑 介護老人福祉施設(特養)
電話:0859-26-5566
担当:大塚正晃、篠原悠也

